

9月16日(土) 研究発表第7室(722)

英語読解習得過程における母国語の影響について

The Impact of Non-Alphabetic First Languages on the Orthographic Coding System in English as a Second Language (ESL)

(Key Words: Reading Comprehension, Word Recognition, Orthographic Coding, Orthographic Knowledge, & Cognitive Processing)

トロント大学大学院 赤松信彦

第二言語 (L2) としての英語習得に関する研究 (ESL Research) は理論的概念や習得モデル等、多くを第一言語 (L1) 習得に関する研究から取り入れてきた。しかし、近年、第一言語習得理論を単純に理論的枠組みとして行われた研究ではなく、第二言語習得であるが故に、もたらされる特徴及び問題点に着目しながら、新たな ESL Reading Research の骨組みの確立を目指す研究が求められている (Grabe, 1991; Koda, 1994)。例えば、Koda (1994) は、L2 Reading Research が考慮しなければならない基本的要因として、(1) L2 学習者の母国語における読解力、(2) 母国語と L2 との言語特徴の相違、(3) 読解習得過程における Reading と Speaking の能力差、を挙げている。これらの L2 Reading Research にとって重要と思われる課題は、L1 Reading Research から生まれた読解習得理論や読解過程モデルにおいて、ほとんど考慮されていない。

本研究は、L1 Reading Research において言われている、単語認識能力の文章読解に果たしている重要な役割 (Stanovich, 1991) が、ESL Reading においても見られるのかという研究課題を念頭に、Koda が挙げる第二の要因、すなわち、母国語と L2 との言語特徴の相違に焦点を置き、母国語の言語特徴が ESL 学習者の単語認識 (Word Recognition) 及び文章読解 (Reading Comprehension) に及ぼす影響について調べた。

1. 研究目的

本研究の目的は英語読解能力の高い ESL Reader を対象に、ESL 学習者の母国語の言語特徴が英単語認識及び文章読解メカニズム形成にどのような影響を及ぼすのかを考察することである。特に、英語を母国語とする Reader と比較し、高い英語読解能力を持つ Skilled ESL Reader が、単語認識及び文章読解という点において、どのように類似または相違しているのかにも注目した。なお、本研究は昨年の JACET 全国大会で発表された研究、「母国語の言語特徴が英単語認識メカニズムに与える影響について」(赤松, 1994) をさらに発展させたものである。

2. 研究方法

被験者 トロント大学大学院で学ぶ留学生のうち、中国語 (logography)、ペルシャ語 (alphabet)、日本語 (logography & syllabary) を母国語とする学生を本研究の被験者とし、各グループから 16 名ずつ選んだ。統制群 (Control group) として、英語を母国語とする同大学院の学生 17 名が本研究に参加した。

実験

(1) 単語認識: Word Recognition Task として Naming Task が使われた。実験材料として、英単語 80語 (20 高頻度規則発音単語、20 高頻度不規則発音単語、20 低頻度規則発音単語、20 低頻度不規則発音単語) が用いられ、各被験者の単語認識速度が測定された。英単語は普通表示 (Lowercase: e.g., back, could) と特殊表示 (Alternated case: e.g., bAcK, cOuLd) の二種類の表示方法で一語ずつ、コンピューター画面に示された。

(2) 文章読解: 各被験者はコンピューター画面に表示される文章 (100-120 words) をできるだけ速くかつ正確に黙読し、各文章を読み終わるごとに表示される内容に関する設問に記号で答えるよう指示された。文章は上記の Naming Task 同様、普通表示と特殊表示の二種類の表示方法で示された。文章の難易度は三種類 (Easy, Moderate, Difficult) で、それぞれの難易度から 2 文章、各表示方法で被験者に示された。文章表示はすべて、コンピューターにより制御され、各文章ごとの読解時間と文章理解度が記録された。

3. 結論

Alphabet 以外の言語を母国語 (中国語・日本語) とする ESL Reader にとって、特殊表示が与える影響は、単語認識及び文章読解のレベルで、Alphabet 言語を母国語 (ペルシャ語) とする ESL Reader よりも大きかった。この結果は、母国語とは言語特徴の異なる言語で読解を習得する場合、「単語処理」という最も根本的な Bottom-up Processing のレベルでさえ母国語の影響を受け、その単語処理メカニズムの非効率性が Top-down と Bottom-up Processing の両方が、より Interactive に働いている文章読解のレベルにまでも影響していることを示唆する。

参考文献

- 赤松信彦 (1994). 母国語の言語特徴が英単語認識メカニズムに与える影響について.
第 33 回大学英語教育学会全国大会発表論文.
- Grabe, W. (1991). Current developments in second language reading research. *TESOL Quarterly*, 25, 356-406.
- Koda, K. (1994). Second language reading research: Problems and possibilities. *Applied Psycholinguistics*, 15, 1-28.
- Stanovich, K. (1991). Word recognition: Changing perspectives. In Barr, R. et al. (Eds.), *Handbook of Reading Research (Vol. 2)*. New York: Longman.

9月16日(土) 研究発表第7室(722)

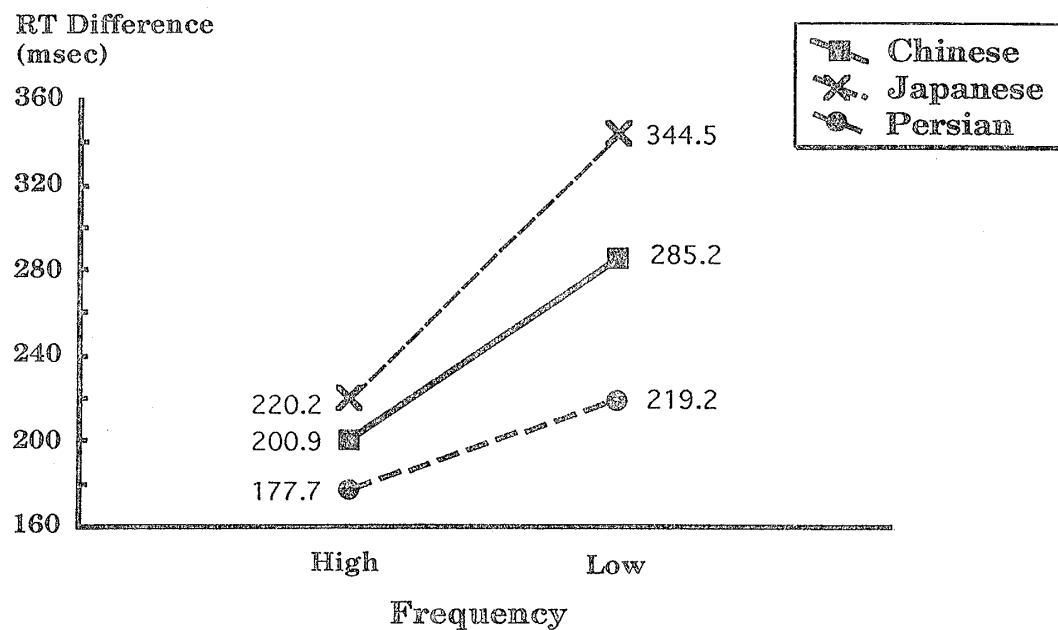


Figure 1: The magnitude of case alternation in the planned comparison (Persian vs. Chinese and Japanese) on lower- and alternated-case naming reaction time (Experiment 1) was significantly larger for the Chinese and the Japanese than the Persian.

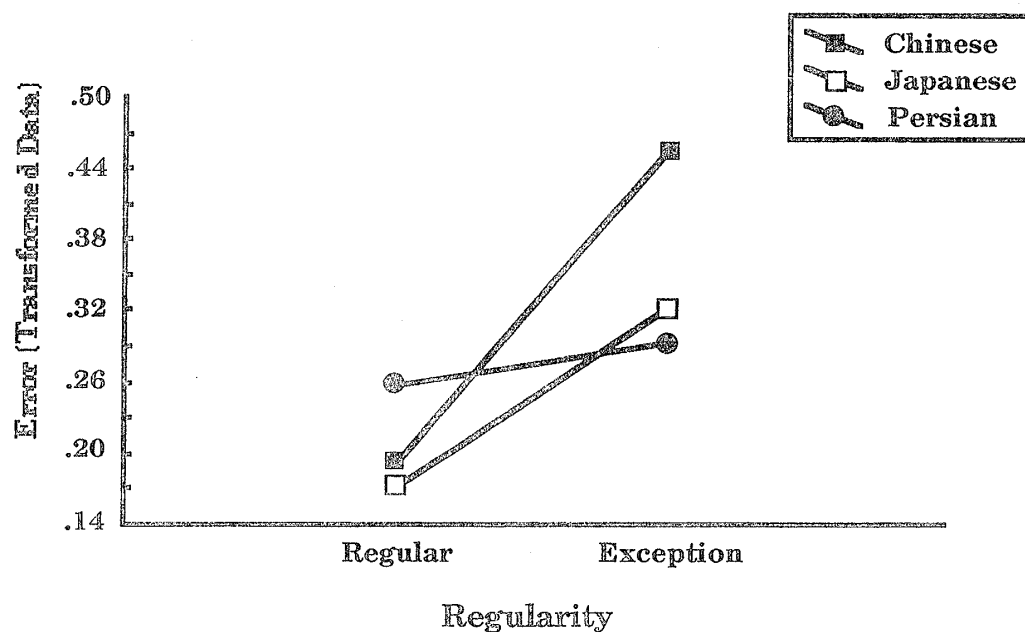


Figure 2: The two-way interaction between L1 and Regularity in the planned comparison (Persian vs. Chinese and Japanese) on lower- and alternated-case naming response accuracy (Experiment 1) identified the superiority of the Persian over the Chinese and the Japanese

9月16日(土) 研究発表第7室(722)

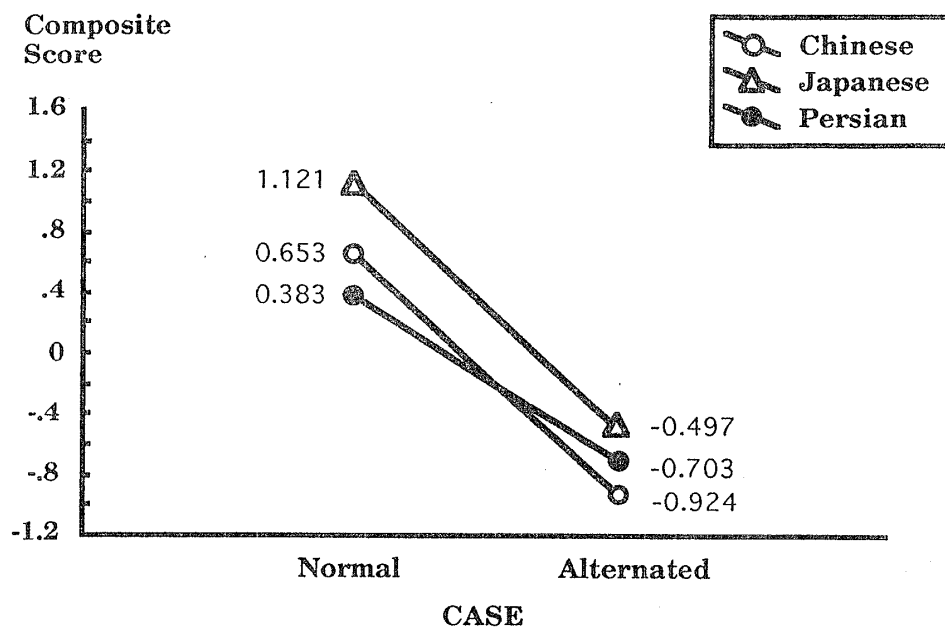


Figure 3: The two-way interaction between L1 and Case in the planned comparison (Chinese and Japanese vs. Persian) of the composite score data (Experiment 2) showed that the Chinese and Japanese experienced a larger impact of case alternation on text reading than the Persian.